

自然観察会報告
御前崎『磯の自然観察会』報告
玉井隆章



採集風景

まだ夏の暑さが残る9月17日の土曜日に、御前崎灯台近くの磯で観察会を実施しました。観察会は、大人19名、子供1名の計20名が参加し、東海大学の太田貴清先生（魚類以外担当）と高見宗広先生（魚類担当）に採集された生物について解説していただきました。当日は、曇り空で採集するのに丁度いい気温の中、干潮時刻前後の10時から13時まで採集・観察を行いました。参加者の皆さんは思い思いに磯へ散らばり、魚を探ったり、貝を拾ったり、甲殻類と戯れたり磯の楽しさを満喫されていました。

今回の観察会では、鳥類2種、魚類10種、甲殻類8種、棘皮動物2種、巻貝類35種、二枚貝類7種、ヒザラガイ類2種、緑藻類3種、紅藻類6種、海草類1種と数多くの生物が採集・観察されました。開始してすぐさま潮溜まりを覗いてみると、スズメダイ類が群れて泳ぎ回り、アゴハゼやギンポ類が岩陰から顔を出し、海藻の間からはキヌカジカが飛び出し、磯の観察会らしい風景を見せてくれました。また、採集出来なかったものの、チョウチョウオ類やシマハギといった鮮やかな体色の魚類も見ることが出来ました。ふとまわりを見ると、観察会の参加者以外にも多くの人が磯を訪れて自然との触れ合いを楽しんで

おり、中にはウェットスーツとシュノーケル・マスクをつけて採集をしている猛者もいました。御前崎の磯はそれだけ魅力のある場所なのでしょう。採集に戻り、岩周りでの網入れを続けていると、濃い緑色と鮮やかな橙色で彩られたゴクラクミドリガイ科の1種（ウミウシのなかま）が採れました。色がきれいで、ひらひらと動いて目につくためか、他の参加者の方も数多く採られていました。太田先生の解説によると、ゴクラクミドリガイ科は海藻を食べることで葉緑体を体内に取り込んで光合成を

行うそうです。解説を聞いた参加者の皆さんは興味深げに見ていました。

今回の観察会ではひとつ残念な出来事がありました。開始直後の磯への移動中に、参加者の1名が磯の手前にあったコンクリートのスロープで滑って転び、手の骨を折ってしまいました。スロープの上が付着藻類などで滑り易くなっていたようです。自然は楽しいことだけ提供してくれるわけではありません。自然と触れ合う以上、どのような観察会でも怪我や事故は起こりうるものです。参加者の皆さんには、楽しく観察会を終えるためにも、起こりうる危険を想定し、注意しながら観察会に臨んでもらえればと思います。



採集された生物の解説